２０２５　山の足跡２３　気分はルパン三世

高原山（2025/10/22）

Ｌ：M浦、Ｔ山、Ｈ口

　早朝 5:30、御茶ノ水・聖橋口にフィアットが停まっていた。中には 3 人の人物。
「おい、ルパン、今日はどんなお宝を狙ってるんだ？」
「そうよ、アタシに声掛けたんだからそんじょそこらのモノじゃ許さないわよ。」
「まあまあ、ジゲンも不二子ちゃんもそうあわてなさんなって。山の上にお宝がわ～んさか並んでるって確かな筋からの情報だぜ。まあ行ってみようじゃねぇの。」
　と、ここまでの会話はフィクション。あややの愛車フィアットがそんな妄想を思い起こさせたのだ。
「ルパン三世が乗ってるフィアットって本当はこの一つ前の型なんだよね。」

　ペールグリーンのフィアットが夜明けの町を走り出した。向かうは栃木県の高原山。二百名山の釈迦ヶ岳を主峰とした連山である。
　モーニングコーヒーと行動食、飲み物をコンビニで調達しようと考えていたのだが「コンビニ寄るのは高速下りてからでいいよね」と言うあややの言葉に従った。
　ところがである、高速を矢板北 PA のスマートインターで下りたらコンビニが無い。持ってきたバナナとＴさんがくれたタケノコおにぎりで行動食は何とかなるけれど飲み物はどうしたものか。あわやのところ自販機を発見、ペットのお茶を確保できた。

　八方ヶ原の小間々台に車を停め 8:50 に歩き出した。ここはツツジで有名だそうで、登山道の両脇はトウゴクミツバツツジの回廊となっていた。6 月頃この辺りはどんなに華やかになる事だろう。ツツジの回廊を離れるとほぼ平地となり登山道の踏み跡がわかりにくくなる。ピンクテープを見つけないと登山道から外れてしまう。

　沢を二本渡ると上り斜面となった。落ち葉が斜面を覆い踏み跡は薄い。
「これほとんど歩かれてないよなぁ」と先頭のあややが言う。
　木々は高くそびえ木漏れ日が落ち葉の地面に長い影を落とす。
「ねぇ、これみんな自然林だね」とＴさんが息を切らせながら声を上げる。

　1 時間ほどで大入道のピーク。林の中だが開けた中にうねるような高みがある。
「何かこれ土塁じゃないの」とあややが言うが山城があった可能性があるのかしら。
　この辺りもツツジが多い。大入道から 20 分歩いた所には『縄文躑躅（ツツジ）』と呼ばれる太い幹の木がある。下の方から立派に枝を広げており、これも開花時には見ごたえがあることだろう。
　尾根筋にはツツジの他にダケカンバの白い幹が伸び、それを透かすように紅葉がちらほらと散らばる気持ちの良い散歩道が続く。

　ほぼ平らな尾根筋が急に上り出した先に剣ヶ峰の山頂があった。周囲は木に覆われ見晴らしは無い。ここで一本取る。あややは腰を下ろすとザックから梨を取り出してきょとんとした表情のままナイフで剝きだした。そして「はい」とＴさんと僕に一切れずつ分けてくれた。
「美味しい。こんな所で果物食べるのっていいじゃない」とＴさんからも喜びの声。さらにはポットを取り出しコーヒーのサービス。マメなお人である。ありがとう。

「で、どうするの、えっ？ここで引き返す？」とＴさんが聞いてきた。この先の釈迦ヶ岳まで行って帰って来ると 7 時間コースになるので時間によっては剣ヶ峰から引き返すという選択肢も出ていたのだ。時間は 11 時、行くでしょ。
「やっぱりそう言うと思ってたよ」と言いながらＴさんイヤな顔をしなかった。あややからの梨とコーヒーが効いたかな。

剣ヶ峰からのゆるい下り、葉を落とした木々の先にお椀を伏せたような釈迦ヶ岳のシルエットが見える。すっかり秋から冬にかけての光景だ。陽が射しているが空気がヒヤッとして手袋をしていないと手がかじかむほど。

尾根筋に巨岩にまとわりつくようにして生えている木がいくつも見られた。その辺りは疎林でむしろ巨岩に絡みつかないと生き残れなかったのかもしれない。
釈迦ヶ岳の手前はダケカンバの林になっていた。背の高い白い幹が辺り一面真っすぐ伸び上がっているのはなかなか見ない光景のように思った。

そこを過ぎると山頂直下の急な上りとなる。木の間から剣ヶ峰、大入道のピークがひょうたんのように並んでいるのが見える。急登を上って鶏頂山への分岐を越えた先で開けた山頂にポコッと出た。時間は 12:40、片道ほぼ 4 時間だった。

山頂は高原山神社の奥の宮となっており、3 年前に改築されたという真新しい鳥居と祠、打出の小槌を持った像、釈迦如来像が並んでいた。高原神社自体は 1,300 年もの歴史があるのだが改築された建造物が新しすぎてあややもあっけにとられていた（ねぇルパン、これが言ってたお宝なの？と不二子ちゃんも言うだろうか）。

景色に目を向けると北北東に茶臼岳、南東に矢板市街が見渡せる。西側のモッコリした鶏頂山の先には日光の山々が見えるはずだが今日は雲を被っていた。
ここではあややは柿を取り出し、また剥いて分けてくれた。

30 分ほど山頂で休んだ後、下山に取り掛かった。あややが分岐で鶏頂山の方へ行きそうになりあわてて引き返した。でも下山路を間違えたのはあややだけではなく、我々より先に犬を連れて下山を始めた人も間違えて引き返して来た。先を譲ると犬が主人を先導するように先へ下りて行く。急な下りなのに犬は頭を下にしたまま下りて行くので感心した（それは当たり前なんだろうけれど）。

剣ヶ峰直下の分岐まで戻り、そこから往路の道ではなく大間々台へ向かう見晴らしコースへ進路を取る。まずは剣ヶ峰と隣り合ったピークへの上りを上がる。
「また上り？」とＴさんが言うと
「これ上ったら後は下りだけですから」とあややが頭を下げた。

剣ヶ峰の標高が 1,540m に対しこちらのピークは 1,590m と高いのに地図には山の名が記載されていない。標識が立っていたので見るとそこには『矢板市最高地点』と書かれてあるだけ。あくまでもこのピークには名前を付けないつもりなのか。
ここで一本取るとまたあややがザックから梨を取り出した。先ほどもそうだったが剥いた皮が途中で切れずに繋がっている。どうやら果物の皮を剥くのを得意としているらしい。

八海山神社は石を積み上げたケルンのような祠が作られている。ここから見晴らしコースが始まるが前面に広がる矢板市のパノラマが見渡せる。斜め後ろに釈迦ヶ岳が見えるが、その一つ手前の尾根筋が特に紅葉が進んでいるように見えた。植生によるものなのだろう。
だいぶ下りて来て周りの木々の種類も変わってきた。ナナカマドの赤い実が青空とのコントラストでひときわ引き立っているのが印象的だ。

大間々台に 16 時に着く。ここから車を停めた小間々台に続く道は丸い岩を並べてセメントで固めた歩道になっていて歩きにくい。何でこんな風にしたんだろう。下山してきた足を余計に疲れさせる。

駐車場に戻ったのは 16:30。結構頑張ったハイキングとなったなぁ。フィアットに乗り込むと再び気分はルパン三世一味。さてと銭形のとっつぁんが来る前にとっととずらかっちまおうぜ。

（Ｈロ　記）